

天主閣

だより

マキキ聖城キリスト教会



「あなたの心に」

マキキ聖城キリスト教会牧師

具志堅 聖

主イエス・キリストのご降誕を心からお慶び申し上げます。

私は今年ホノルルで初めてのクリスマスを迎えます。常夏の地のクリスマスは実はこれで二度目です。一度、二〇〇三年に夫婦でシンガポール日本語キリスト教会に招かれて、そこでアドベントを過ごしたことがあります。とても暑い気候の中、集会から集会へと信徒の家を周ったことを思い出します。そして、街中が緑と赤のデコレーションに飾られ、大きなデパートではクリスマス大バーゲンが行われていました。街の一角では、雪（または氷）を造る機械が設置され、ホワイト・クリスマスを演出するような所もありました。年末の慌ただしさはどの国にも存在するのだなと思つたことです。

その時、神さまは私をいつもの生活の場から引き離す（退く）ことによつて、「クリスマスとはいったい何か？」ということを考え直す貴重な機会を与えてくださいました。私たちの前に表れるクリスマスは、いつの間にかもとのクリスマスとの出来事からかけ離れてしまつてはいないだろうか。喜びや楽しみを共有することは素敵

なことですが、何かが欠けてはいないだろうか。年末年始の準備にいそしむことも大事なことです。何かし忘れてはいないかと。さまざまなことを行う「忙しさ」の中で、「心を亡く」し、ただ浪費と疲労が残るといふ現実には陥つてはいないかと問いかけられたのです。

この世は、主人公（主演者）不在のクリスマスを見事に演出しています。クリスマスとは、遠い昔より伝えられてきたメシアの到来、イエス・キリストの誕生を覚えて礼拝をささげることです。そのお方の誕生の意義、約束、秘儀、福音を味わうことにあるのです。けれども、実態はそれから遠く離れている。この福音に覆いをかけている別の存在がいる。見事にその謀略にはまっていられないだろうか。読者の皆さん、あなたの心はいかがでしようか。ドイツの宗教詩人のアンゲルス・シレジウスが次のような詩をクリスマスのために詠んでいます。

「キリストが千度ベツレヘムにお生まれになつても、あなたの心の中にお生まれにならなかつたら、あなたの魂は捨てられたままです」と。

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

（ルカ二章十一節〜十二節）

あなたの心の中に救い主がお生まれにならなければ、クリスマスはただの虚しい出来事に終わってしまうかもしれません。本当の恵みを受けてほしい、と強く願っています。



のぞみの会便り

のぞみの会の部屋には今年集つたメンバーの笑顔のオーナメントが飾られているクリスマスツリーがあります。どの顔も神様の愛に満ち溢れてきらきらと輝いた笑顔です。今年一年ものぞみの会にはさまざまなお出迎えがありました。楽しいこともたくさんありましたが、ともに楽しいときを過ごした数名のメンバーが天に召されました。

私たちにとつてはとても寂しいことですが、今頃天国で先に旅立った仲間と再会を果たしのぞみの会に負けないくらい恵に満ちた集いが開かれていることでしょう。今年最後ののぞみの会は十二月十四日に、恒例のクリスマス会をしました。賛美に加えてゲームや出し物なので楽しいときを過ごします。来年は一月四日からです。教会員でなくてもともに楽しいときを過ごしましょう。ボランティアも募集中です。（直）

のぞみの会 毎週水・金 朝九時〜十二時

お知らせ

二〇一二年、年明けのプログラムです。

*3教会合同サンライズサーブिस
一月一日(日) 朝七時
於マジックアイランド

ホノルルキリスト教会・IJCC・マキキ日本語ミニストリーが合同で新年の朝、主を賛美し、礼拝を持ちます。心新たに新しい二〇一二年に臨みましよう。

*新年礼拝

一月一日(日) 朝十一時二〇分 礼拝堂

*餅つきフェロシッパ

一月一日(日) 礼拝後
コートヤードにて餅つき、
愛さん会ホールにて交わりの
ランチをご一緒します。
是非お残りください。



テリーさんの簡単クッキング

おせち黒豆

ホリデーシーズンの締めくくりはお正月。そしておせち料理です。おせちに欠かせないものに黒豆があります。このレシピがあれば、黒豆もふっくら甘く煮ることができます。

<材料>

黒豆1カップ、砂糖1カップ、水1カップ半、醤油大さじ1

<作り方>

- ① 豆の3倍の水に一晩漬ける。
- ② 漬け汁ごと鍋に入れ、火にかける。火加減は“Low”。（豆の皮がはがれ易いので決してぶつぶつ煮立てないこと。）
- ③ 時々アクを取り、その都度差し水を加えながら、4時間以上煮る。
- ④ 指で摘んでつぶれるくらいまで柔らかく煮てから、豆をザルにあげ、漬け汁と分ける。
- ⑤ 漬け汁に砂糖を入れ、ひと煮立ちさせ、豆と同じ温度まで冷やす。
- ⑥ 豆と冷やした煮汁を混ぜ、（皮がはがれるのをふせぐために）2晩ほど冷蔵庫の中で甘みを含ませる。
- ⑦ 煮立てない程度に温め、醤油を入れ鍋を持って上下にふる様にして混ぜる。（決してしゃもじで混ぜないこと。）

今月の証

「救いの証」

熊谷 恵

私は三人兄弟の長女として生まれました。母方では初孫だったということもあり、父や母はもとより親戚中にとっても愛情を注がれて育ちました。小さい頃から、私は周囲の人に「あんたは、運がいい」とか、「ついでている」と言われて、育ってきました。事実、私は、とてもラッキーなことに、恵まれていたと思います。「絶対に受かるはずがない!」と言われていた高校に受かったり、「就職なんてできるはずがない」と言われ、自分でもその気だったにもかかわらず、短大の卒業式の翌日に受けた面接で就職が決まったりなど。運が良く、ラッキーな歩みをしていました。そのように恵まれている生活の中でも、私は毎日、「なんかもっと面白いことないかなあ〜!」と思い続けて生きていました。実際には、とても面白い毎日で、笑って過ごしてはいたのですが、もっと面白いことを追い求めていました。

四年間仕事をした後、私は旅行で来たハワイに憧れていました。その期間に貯めたお金をもってハワイを訪れ、ハワイ大学の語学プログラムに参加しました。「ここに来れば、もっとおもしろい生活が待っているだろう」と思ってきたのですが、現実となってみると、そうたいしたことはありませんでした。まあそれでも徐々に面白くなってきました。

語学研修を終えて日本に帰る十日くらい前に、主人と知り合い、とんとん拍子に結婚の話になりました。実はその時も、「結婚は女の幸せというから、一回くらいしてみようか」というくらい軽いのでした。結婚して、三ヶ月くらいは「こういうのも、楽しいかな?」という感じでしたが、

ある期間を過ぎると、これまた面白くなってきたのでした。

● 転機

「子供を持つのは、女の最大の幸せ!」という言葉を思い出し、子供を生んでみました。けれども実はその直後、私は人生のドツボにはまったような状態になっていったのです。昼夜かまわず泣き叫ぶ長男。子育てで全くどこにも出かけられず、毎日、「こんなはずではなかった」と思いながら生きるようになっていたのです。きつと、今で言う【育児ノイローゼ】の一步手前だったと思います。「これが女の幸せの最大級なんやったら、もう死んでもええわ」とまで思っていました。

そんな時、子供を連れて行った近くの公園で出会った同じ年の子供を持つ方が、私を、マキキ教会の「虹の集い」に誘ってくれました。牧師先生のお話を聞く間はミセス(奥様)が子供を見ていてくださる。その後においしい昼食をいただける。その頃、私が求めていた、①子供と離れた時間が持てること、②美味しいものが食べられること、が与えられる場でした。そこに、最高のアプローチで、イエスキスは私に迫ってこられたのです。早速その話に飛びついて、虹の集いに参加するようになりました。

はじめ聞いた時は、キリスト教に興味があるわけでもなかったのですが、ただ何となく、「ええ話しやなあ〜」という感じでした。しかし、だんだん聞いていくうちに、大人になってから知りたかったことが詰まっている話だということに、気づかされたのです。知りたかったけど、誰にも聞けなかったこと。知りたいと言うことを、他の人に知られることが、弱みであるように感じていたこと。それらの事柄をいとも簡単に口に出すのです。そして、自分の弱いところもすべて知っていてくださっているお方がいらっしゃることを知った時、とても嬉しかったことをはつきりと覚えていきます。

● 入信・洗礼・恵みの歩み

それから数年は、つかず離れずの教会生活を送っていました。礼拝にも行ったり、行かなかったりしていました。けれども、ある日気づかされたことは、私が「神さまなんていない!」と公言していた頃から、主は私と共にいてくださり、守ってくださっていたこと。私がついていた(ラッキーだった)のは、神様がいつも共にいてくださったからということが分かるようになったのです。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」

(ヨハネ一五章二六節)

この聖書の言葉に出会った時、私は本当に驚きました。

三人目の子供が生まれた後、一九九三年四月一三日、その年のイースターに洗礼を受けました。その後、主人も救われ、四人の子供たちも洗礼を受け、はれてクリスマスチャンホームとなりました。クリスマスチャンホームとなりました。クリスマスチャンホームでもちろんケンカもします。けれども、家族が最も深い部分で同じ信仰を持っていることは大きな力だと感じています。

小さい頃から、日曜日に教会に行くことが当たり前として育った子供たちは、強制ではなく、日曜日には教会に行くものだと思っただけで、反抗期の際にはあまり親と口をきかなくても、彼らは日曜日には教会に来ていました。今は、長男の徹、次男の航、そして長女の星(ひかる)はサンデースクールで子供たちに聖書を教えています。

「なんか、もっと面白いことないかなあ〜」と探し続けていた私に、神さまが与えてくれたものは、常にもっとも面白く待つていて、神にある一日一日なんののだと、今しみじみ思っています。

編集後記

今年後半は授業の関係でのぞみの会にいかれず心落ち着かない時間を過ごしましたがセメスターも無事終了です。のぞみの会便りも、ちひろさんや照子さんに様子を伺いながら書いた一度は大城さんには原稿をお願いしたこともありました。兄弟姉妹のおかげで乗り越えることができました。本当に感謝です。皆様!来年も神様の愛に守られて実りのある一年となりますように!

MERRY CHRISTMAS!

大塩 直子

年々、身の周りで起こる出来事が交差し、その出来事がどの年に起きたのかと考えることがあります。それが分らないと自分の変化もぼやけてしまうので、そのときの気持ちを心にしっかりと覚えるようにしたいです。いつも一緒に喜怒哀楽を通ってくれる主人は、私のドラマの名脇役です。来年からも二人で成長していきますように。

松浦 由紀子

今年はいよいよパールハーバーアタックから七十年。十数年前までは、二世の方々からマキキの天守閣から見えた日曜日の真珠湾攻撃の様子をまるで昨日の事のように話して下さいました。歴史を語って下さる方が少なくない中で、本当に伝えなくてはならない大事なことを発信できる天主閣便りでありたいと願っています。来年もどうぞよろしくお願いたします。

玉寄 朋子

責任者 マキキ聖城キリスト教会 宣教師
編集者 松浦 由紀子・大塩直子

玉寄 朋子

